

市河ニ陽 いちがは 書家。明治十一年東京生れ、昭和二年一月十日歿（一八七九—一九三七）。號泰庵。書家市河万菴まんがくの嗣子、兼し英語學者市河ニ喜、林學博士市河ニ縁。書を以て家業を繼いだ。著書に、祖父米庵と頼山陽の交遊を叙した『東西兩奇士』（大正五年十一月）、「十七日樂聖會」聖海「別冊」がおり、株鷗外が題三言と、長井金風が題詩を寄せてゐる。また漢文による關東大震災罹災記『墟録』（大正十四年十一月八日遊徳園）は、永井荷風がその日乘いゝと詳録。他に『無門驛の鍵』（昭和二年二月五日私家版）を著はし、曾祖父市河寛齋著『寛齋先生餘稿—附摘草』（内題「寛齋先生餘稿」大正十五年六月）、「二十五日遊徳園」を繪纂刊行した。

